#担告号		ナエ的別体性や月丁丁匹ノドノノの
野田教	授業科目名	ハンドボールコーチング論演習 I
存金		
野田部 春和 木2、秋和 木2、秋	単位数	
担当教員 会田 宏、藤本 元、山田 永子 担対外における文献の特談を通して、ハンドボールのコーチングに関する基礎理論および応用理論について学習である。 没著 アンドボールコーチング論解状に対ける基礎的および応用的な知識。 国内外で発信されている最新理論	標準履修年次	121
接来形態	時間割	春AB 木2, 秋AB 木2, 秋C 木3-4
接業形態 (漢音) (文字音する。) (文字形・ルコーチング) (会	担当教員	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子
バンドボールコーチング論削減における基礎的および応用的な知識。国内外で発信されている最新理論 の学修を通じ、倫理親、専門知識はよび国際性を非につける。 ハンドボールコーチング論が成における倫理財産を確立すると。 2) ハンドボールコーチング論に関する幅広い知識を理解し、説明できるようになること。 3) 関連分割における国内外の文献を収集し、精話できるようになること。 3) 関連分割における国内外の文献を収集し、精話できるようになること。 (コンドブース・漁程観、専門的知識、国際性) 第 1 回 ハンドボールのサング論に関する偏異(担当:合田 宏) 第 2 回 ハンドボールを被反が歴史と原望組当:合田 宏) 第 5 回 (ロ) セットディアンス(金担) の解菌(担当:合田 宏) 第 5 回 (ロ) セットディフェンス(における技術と戦争の構造(担当:合田 宏) 第 6 回 (ロ) セットディフェンス(における技術と戦争の構造(担当:合田 宏) 第 7 回 (ロ) 連攻における技術と戦争の構造(担当:合田 宏) 第 9 回 ハンドボールにおける技術と戦争の構造(担当:合田 宏) 第 9 回 ハンドボールにおける技術と戦争の構造(担当:合田 宏) 第 9 回 ハンドボールにおける技術と戦争の構造(担当:合田 宏) 第 10 回 (ロ) 1 新たな技術・聖教の発達(担当:香木 元) 第 11 回 (ロ) 1 新たな技術・聖教の発達(担当:香木 元) 第 11 回 (ロ) 1 新たな技術・聖教の発達(担当:香木 元) 第 12 回 (ロ) ルールの変更と技術・戦争の発達(担当:藤木 元) 第 16 回 (ロ) 経典教の発達(担当:藤木 元) 第 16 回 (ロ) 経典教の発達(担当:藤木 元) 第 16 回 (ロ) 経典教の発を対し、対策を決し、対策を表し、第 15 回 (ロ) ルールの変更と技術・戦術の発達(担当:藤木 元) 第 16 回 (ロ) 経典教のをオースアランとレー長期的レーニングフランの作成(担当:山田 永子) 第 18 回 (ロ) チェネギジントの実定(出き:藤木 元) 第 19 回 ゲームプランとレーニングブランの作成(担当:山田 永子) 第 20 回 (1) 経典教がケームアランと中長期的レーニング内等と方法担当 山田 永子) 第 21 回 (D) 対策科手に応じた個別のゲームプランと短期的レーニングブランの作成(担当:山田 永子) 第 22 回 (日) シア・ディフェンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 25 回 (ロ) シア・ディフェンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 26 回 (ロ) リア・ドア・アンダに対ける技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 26 回 (ロ) リア・ドア・アンダンスにおける技術力と戦術力の表成(担当:山田 永子) 第 26 回 (ロ) リア・ドア・アンスにおける技術力と戦術力の表成(担当:山田 永子) 第 27 回 (ロ) がより、実際がより、	授業概要	国内外における文献の精読を通して、ハンドボールのコーチングに関する基礎理論および応用理論について学習する。
砂学修を通して、倫理観、専門知識はよび国際性を身につける。 1) ハンドボールコーチング論領域における倫理観を確立すること。 2) ハンドボールコーチング論領域における倫理観を確立すること。 3) 関連分解における国内外の文献を収集し、精誇できるようになること。 3) 関連分解における国内外の文献を収集し、精誇できるようになること。 5) 第 1 回 ハンドボールコーチング論領域における教育および研究に関する倫理(担当:會田 宏) 第 2 回 ハンドボールの競技の歴史と限望(租当:會田 宏) 第 3 回 ハンドボールの最初の歴史と限望(租当:會田 宏) 第 4 回 グームの局間構造(担当:會田 宏) 第 5 回 (1) セッドアタックにおける技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 5 回 (1) セッドアタックにおける技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 7 回 (3) 速攻における技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 8 回 (4) リッー・ディフェンスにおける技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 9 回 ハンドボールにおける技術を機術の経過(担当:會田 宏) 第 9 回 ハンドボールとおける技術を機術の構造(担当:會田 宏) 第 10 回 (1) 都たな技術・理術が発生するカルニズム(担当:静本 元) 第 11 回 (2) 技術と個人戦術の発達(担当:藤本 元) 第 12 回 (3) グループ戦術の発達(担当:藤本 元) 第 13 回 (4) チーム戦術の発達(担当:藤本 元) 第 15 回 (5) チームマルランと中央実際(担当:藤本 元) 第 16 回 (1) 組織がくりと環境で入り(担当:藤本 元) 第 17 回 (2) トレーニングの運営(担当:暦本 元) 第 18 回 (3) ゲームマネジシントの実際(担当:藤本 元) 第 20 回 (1) 標準的なゲームプランと地域的トレーニングプランの作成(担当:旧田 永子) 第 20 回 (1) 標準的なゲームプランと地域的トレーニングプランの作成(担当:旧田 永子) 第 21 回 (2) セットデオフェンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 22 回 (3) 建攻における技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 25 回 (3) 建攻における技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 26 回 (3) サンス・フィンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 27 回 (5) の 一般的 専門的なため、アレングランのの後正(担当:旧田 永子) 第 28 回 ゲームやにおける技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 29 回 ゲーム・マースの評価とゲーム・ドレーニングプランの修正(担当:旧田 永子) 第 29 回 ゲーム・中における技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 29 回 が上、中における技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 29 回 が上、中における技術の主義に関すている状況を終われる養成(担当:旧田 永子) 第 29 回 が上、中における技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 29 回 が上、中における技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 29 回 が上、中における技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 24 回 (2) セッド・ディンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 29 回 が上、中における技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 29 回 が上、中における技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 24 回 (2) セッド・ディンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:旧田 永子) 第 25 回 (3) 建攻にはは、対域では、対域では、対域では、対域では、対域では、対域では、対域では、対域	授業形態	演習
第 2 回 ハンドボール院技の歴史と展望(担当: 會田 宏) 第 3 回 ハンドボールにおける競技の構造(担当: 會田 宏) 第 4 回 ゲームの局面構造(担当: 會田 宏) 第 5 回 (1) セットアタックにおける技術と戦術の構造(担当: 會田 宏) 第 6 回 (2) セットディフェンスにおける技術と戦術の構造(担当: 會田 宏) 第 7 回 (3) 速度における技術と戦術の構造(担当: 會田 宏) 第 8 回 (4) リトリートディフェンスにおける技術と戦術の構造(担当: 會田 宏) 第 8 回 (4) リトリートディフェンスにおける技術と戦術の構造(担当: 會田 宏) 第 9 回 ハンドボールにおける技術と戦術の発達(担当: 庸本 元) 第 10 回 (1) 新たた技術・戦術が発生であり、エズ (担当: 藤本 元) 第 11 回 (2) 技術と個人戦術の発達(担当: 藤本 元) 第 12 回 (3) グループ戦術の発達(担当: 藤本 元) 第 14 回 (5) ルールの変更と技術・戦術の発達との関係(担当: 藤本 元) 第 15 回 デーム・戦術の発達(担当: 藤本 元) 第 16 回 (1) 組織・どりと環境でより(担当: 藤本 元) 第 17 回 (2) トレーニングの運営(担当: 藤本 元) 第 17 回 (2) トレーニングの運営(担当: 藤本 元) 第 18 回 (3) ゲームマネジメント(担当: 藤本 元) 第 19 回 ゲームプランとして・エングブランの作成(担当: 山田 永子) 第 20 回 (1) 標準的なゲームプランとして・上のが皮等し方法(担当: 山田 永子) 第 21 回 (2) 対戦相手に応じた個別のゲームプランと起期的トレーニングブランの作成(担当: 山田 永子) 第 22 回 ゲームプランと実力のありトレーニングブランの作成(担当: 山田 永子) 第 23 回 (1) セットアタックにおける技術力と戦術力の養成(担当: 山田 永子) 第 24 回 (2) セットディフェンスにおける技術力と戦術力の養成(担当: 山田 永子) 第 25 回 (3) 速度なにおける技術力と戦術力の養成(担当: 山田 永子) 第 26 回 (4) リトリートディフェンスにおける技術力と戦術力の養成(担当: 山田 永子) 第 27 回 (5) 一般的・専門的な体力とメタリティーの養成(担当: 山田 永子) 第 29 回 ゲームパフォーマンスの評価とゲーム・トレーニングブランの修正(担当: 山田 永子) 第 29 回 ゲームパフォーマンスにおける情報で担当: 山田 永子) 第 29 回 ゲームパフォーマンスの決しが、大阪信報では当: 山田 永子) 第 29 回 ゲームパフォーマンスの作成(担当: 山田 永子)	授業の到達目標	1) ハンドボールコーチング論領域における倫理観を確立すること。2) ハンドボールコーチング論に関する幅広い知識を理解し、説明できるようになること。3) 関連分野における国内外の文献を収集し、精読できるようになること。
 		第 2 回 ハンドボール競技の歴史と展望(担当:會田 宏) 第 3 回 ハンドボールにおける競技力の構造(担当:會田 宏) 第 4 回 ゲームの局面構造(担当:會田 宏) 第 6 回 (2) セットディフェンスにおける技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 7 回 (3) 速攻における技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 8 回 (4) リトリートディフェンスにおける技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 8 回 (4) リトリートディフェンスにおける技術と戦術の発達(担当:會田 宏) 第 9 回 ハンドボールにおける技術と戦術の発達(担当:會田 宏) 第 10 回 (1) 新たな技術・戦術が発生するメカニズム(担当:藤本 元) 第 11 回 (2) 技術と個人戦術の発達(担当:藤本 元) 第 12 回 (3) グループ戦術の発達(担当:藤本 元) 第 13 回 (4) チーム戦術の発達(担当:藤本 元) 第 14 回 (5) ルールの変更と技術・戦術の発達との関係(担当:藤本 元) 第 15 回 チームマネ・ジメントの実際(担当:藤本 元) 第 16 回 (1) 組織づくりと環境づくり(担当:藤本 元) 第 17 回 (2) トレーニングの運営(担当:藤本 元) 第 18 回 (3) ゲームマネジメント(担当:藤本 元) 第 19 回 ゲームプランとトレーニングプランの作成(担当:藤本 元) 第 20 回 (1) 標準的なゲームプランと中・長期的トレーニングプランの作成(担当:山田 永子) 第 21 回 (2) 対戦相手に応じた個別のゲームプランと短期的トレーニングプランの作成(担当:山田 永子) 第 22 回 ゲームプラン実現のためのトレーニング内容と方法(担当:山田 永子) 第 23 回 (1) セットアタックにおける技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 24 回 (2) セットディフェンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 25 回 (3) 速攻における技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 26 回 (4) リトリートディフェンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 27 回 (5) 一般的・専門的な体力とメクリティーの養成(担当:山田 永子) 第 28 回 ゲーム中における指揮(担当:山田 永子)
成績評価方法~ C, またはDの評定を行う。それぞれのレポートは、構成力、論理力、要約力、説明力などの観点から評価する。数材・参考文献・配布資料等『球技のコーチング学』日本コーチング学会(編)、大修館書店、2019 『コーチング学への招待』日本コーチング学会(編)、大修館書店、2017 『Playing handball: A comprehensive study of the game』Marczinka, Z., Trio Budapest Kiadó, 2016 『ボールゲーム指導事典』シュテーラーほか(唐木國彦監訳)、大修館書店、1993	履修条件	ハンドボールの競技経験を有すること
教材・参考文献・配布資料等 『コーチング学への招待』日本コーチング学会(編),大修館書店,2017 『Playing handball: A comprehensive study of the game』 Marczinka, Z., Trio Budapest Kiadó, 2016 『ボールゲーム指導事典』シュテーラーほか(唐木國彦 監訳),大修館書店,1993	成績評価方法	評価の割合は、基礎理論に関するレポート50%、応用理論に関するレポート50%とし、総合的に判断して、A+ ~ C、またはDの評定を行う。それぞれのレポートは、構成力、論理力、要約力、説明力などの観点から評価する。
キーワード 技術, 戦術, 体力, 心的・知的能力, トレーニング		『コーチング学への招待』日本コーチング学会(編), 大修館書店, 2017 『Playing handball: A comprehensive study of the game』 Marczinka, Z., Trio Budapest Kiadó, 2016
	キーワード	技術、戦術、体力、心的・知的能力、トレーニング

人間総合科学学術院博士前期課程体育学学位プログラム

授業科目名	ハンドボールコーチング論演習Ⅱ
科目番号	01EH378
単位数	3単位
標準履修年次	2年次
時間割	通年 随時
担当教員	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子
授業概要	ハンドボールのコーチングに関する研究方法論について学習し、修士論文の作成に必要な知識と技能を 養成する。各自の設定した研究テーマに関する先行研究の要約発表、研究成果の中間発表、グループ討 論を行う。
授業形態	演習
授業の到達目標	ハンドボールコーチング論領域における研究対象の範囲,研究方法論,研究成果の発信方法に関する学修を通して,倫理観,研究力,コミュニケーション能力を身につけ,ハンドボールにおけるコーチングの現場で起っている現象を科学的に分析し,論文という形式で表現することができる。 1) ハンドボールコーチング論領域における倫理観を確立すること。 2) ハンドボールコーチング論領域における研究方法を理解し,活用できるようになること。 3) 研究成果を領域外の研究者が理解できるようにプレゼンテーションできるようになること。(コンピテンス:倫理観,研究力,コミュニケーション能力)
授業計画	第1回ハンドボールコーチング論領域における研究に関する倫理(担当:會田宏) 第2回研究において明らかにするべき知の概念(担当:會田宏) 第3回国内外の先行研究において明らかにしている知(担当:會田宏) 第4回研究テーマの設定(担当:藤本元) 第5回研究デザインの作成と検討(担当:藤本元) 第6回データの収集と倫理的問題への対応(担当:藤本元) 第7回データの分析と統計的手法(担当:山田永子) 第8回データの解釈(担当:山田永子) 第9回公共性のある論文作成(担当:山田永子) 第10回口頭による研究発表(担当:會田宏)
履修条件	ハンドボールコーチング論研究領域において修士論文を作成する学生
成績評価方法	評価の割合は、中間発表の成果80%、授業参加への積極性などの平常点20%とし、総合的に判断して、A+ ~ C、またはDの評定を行う。中間発表の成果は、構成力、論理力、要約力、説明力などの観点から評価す る。授業参加への積極性は、グループ討論時の質問力、回答力などの観点から評価する。
教材·参考文献等	『球技のコーチング学』日本コーチング学会(編), 大修館書店, 2019 『コーチング学への招待』日本コーチング学会(編), 大修館書店, 2017 『Playing handball: A comprehensive study of the game』Marczinka, Z., Trio Budapest Kiadó, 2016 『ボールゲーム指導事典』シュテーラーほか(唐木國彦 監訳), 大修館書店, 1993
キーワード	質的研究,量的研究,インタビュー調査,記述的ゲームパフォーマンス分析

人間総合科学学術院博士前期課程体育学学位プログラム

授業科目名	ハンドボールコーチング総合演習
科目番号	01EH649
単位数	1単位
標準履修年次	1年次
時間割	春AB 金4
担当教員	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子
授業概要	ハンドボールのコーチング実践に必要な理論の学習とコーチング実践活動を通して、さまざまな問題に対 処できる専門的な指導力を身につける。
授業形態	演習
授業の到達目標	 ハンドボールコーチングに関する理論を選手およびチームに適用させる指導実践活動を通して、コーチに求められる哲学と倫理を理解するとともに、選手と適切にコミュニケーションを図る能力やチームの機能を高めるチームワーク力を身につけ、コーチング実践力を高める。また、自らのコーチング活動を省察することを通して、知の活用力とマネジメント能力を身につける。 1) ハンドボールのコーチに求められる哲学と倫理観を確立すること。 2) ハンドボールにおいて選手やチームに応じた指導計画を立案し、合理的なコーチングができるようになること。 3) 自らのコーチング活動を省察し、評価できるようになること。 (コンピテンス:倫理観、コミュニケーション能力、チームワーク力、実践力、知の活用力、マネジメント能力)
授業計画	第1回ハンドボールコーチングにおける哲学と倫理(担当:會田宏) 第2回個人戦術,グループ戦術,チーム戦術のコーチング(担当:會田宏) 第3回発達段階に応じたコーチング(担当:會田宏) 第4回指導計画の立案(担当:會田宏) 第5回個人戦術を養成するコーチング実践活動(担当:山田永子) 第6回グループ戦術を養成するコーチング実践活動(担当:山田永子) 第7回チーム戦術を養成するコーチング実践活動(担当:山田永子) 第8回初級レベルの選手に対するコーチング実践活動(担当:藤本元) 第9回中級レベルの選手に対するコーチング実践活動(担当:藤本元) 第10回コーチング活動の評価(担当:藤本元)
履修条件	ハンドボールの競技経験を有すること
成績評価方法	評価の割合は、指導計画書30%、スーパーバイザーによる活動評価30%、活動レポート40%とし、総合的に判断して、A+ ~ C、またはDの評定を行う。指導計画書は、企画力、実現可能性などの観点から評価する。スーパーバイザーによる活動評価は、実践力、適応力などの観点から評価する。活動レポートは、内省の充実度、論理力、説明力などの観点から評価する。
教材·参考文献等	『目からウロコのポジション別上達術〈コートプレーヤー編〉』スポーツイベント・ハンドボール編集部(編), グローバル教育出版, 2016 『目からウロコのDF戦術』スポーツイベント・ハンドボール編集部(編),グローバル教育出版, 2016 『目からウロコのシュート術』スポーツイベント・ハンドボール編集部(編),グローバル教育出版, 2014 『小学校におけるハンドボールの授業〈ゲームでまなぶ楽しいハンドボール〉』山田 永子ほか,株式会社 イセブ, 2014
キーワード	指導計画,指導実践,スーパーバイザー,省察